

(様式3)

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 魚津高等学校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が主体的に参加できる授業への改善、家庭学習時間の充実	
現 状	- 生徒個々の進路希望がかなうよう学力の向上を目指し、授業の充実を図ってきた。互見授業・公開授業や授業アンケートを実施し、授業力向上に取り組んでいるが、授業を含め学習に対して受け身の生徒の割合が高いように思われる。 - 生徒には入学当初よりオリエンテーションなどを通して家庭学習の習慣を身につけさせる指導を行う。また、生徒の家庭学習時間や学習への意欲を把握し、面談や声かけによって、生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行う。	
達成目標	①授業力の向上 ア. 互見授業に参加した回数が年間2回以上である教員の割合 イ. 「授業に興味関心を持てる」と答える生徒の割合	②1, 2年の1週間あたりの平均学習時間 ア. 平均学習時間 イ. 学習内容を理解するために自分なりに工夫している生徒の割合
	ア・イともに80%以上	ア. 1,500分/週 以上 イ. 70%以上
方 策	互見授業、公開授業、生徒による授業評価を実施する。実施後は、授業方法について教科部会で協議し、生徒が自主的、主体的に「もっと学びたい」と意欲を持ち、「深い学び」へと繋がるよう工夫をする。	「生活実態調査」を実施し、担任が生徒の生活実態（予習→授業→復習のサイクルができているか）を把握し、効果的な面接指導を行う。 また、調査結果をもとに学年、各教科が共通認識を持って連携し、課題の出し方、取り組みせ方について工夫する。

令和4年度 魚津高等学校アクションプラン -2-		
重点項目	学校生活	
重点課題	18歳成人に向けた、学校生活における意識の向上	
現 状	- 本校の生徒は、全体的に真面目かつ素直であり、自分で考えて判断し行動できる力がある。様々なアイデアを生み出したり、工夫を凝らしたり、修正を加えたりする能力を潜在的に持っている。しかし、実際には多くの日課をこなす中で思考が働かせづらくなり、自ら考え、目的意識を持って行動する機会が乏しくなりがちで、指示待ちの生徒が少なくない傾向にある。 - 精神的に未熟な面を持つ生徒が少数ではあるが存在し、他者や全体への配慮、ルールの遵守において、思考・判断・行動が十分でないケースが見受けられる。	
達成目標	成人年齢の引き下げに伴い、 ①責任ある行動、自覚を高める意識を育む機会を設ける。 ②1年間の学校生活の中で「適切な思考・判断・行動ができた」と感じる生徒を増やしていく。	
方 策	- 生徒会、生活委員会を中心に、鍵かけ（自転車、ロッカー等）運動やあいさつ運動を行い、自分の役割や立場を再認識させると共に、学校という共同体の中で目的意識を持って他者と協力することの大切さを考えさせる。 - 統一HRにおいて、自己と他者との「人権」や、様々な価値観や多様性を受け入れることの大切さを考えさせる。 - 始業式や終業式、学年集会等を通じて、「服装・頭髪・携帯電話・遅刻・駐輪」等、学校生活におけるルールやマナーを守ることの理由や意義について考えさせる。 - 交通安全教室、防犯教室、薬物乱用防止教室の実施やHR活動での「スマホのルール作り」を行い、「交通規則・SNS」等に関する法律（社会規範）を守ることの理由や意義について考えさせる。	

	・年に2度、自己評価を実施し、(1)共同体(学校)における人間関係、(2)人権(いじめ)、(3)学校生活のルール、(4)法律(社会規範)の4つの観点について、生徒一人ひとりの意識の改善・継続・向上を図る。 ・PTA総会や各学期の保護者会等で、アクションプランの重点課題と達成目標について理解を求め、家庭と学校が連携する体制を整える。
--	---

令和4年度 魚津高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人が自己のあり方、生き方を考え、学習意欲を高める指導	
現 状	・全般的に進学に対する意識は高いが、大学進学のための目的や将来のビジョンが明確でなく、そのために具体的な進路目標の設定が遅い生徒が見受けられる。 ・生徒自身が自己の能力・適性を深く考えて進路目標を設定しているとはいえない面があり、漠然とした進路目標のため、自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒がいる。 ・9割以上の生徒が国公立大学に進学を希望している。	
達成目標	①進路指導支援全般と3年時の個別試験対策支援の満足度、充実度 (志望大学・学部・学科・将来の職業等の設定)	②国公立大学合格率 (国公立大学合格者数/国公立大学出願者数)
	卒業時の満足感、充実感を高める	進学率 75%以上
方 策	・「総合的な探究の時間」を中心として将来の進路を考えさせる。 ・進路講演会や進路情報提供を充実させ、意欲的に学習に取り組ませる。 ・面接指導を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、早期に進路目標を設定させることで学習意欲を高め、学習習慣を確立させる。 ・共通テスト後の個別試験対策に積極的に取り組ませる。	・生活指導を基本とし、自学自習の力を養成する。 ・3年間を見通した進路指導計画を作成し実施する。 ・学習状況の把握を目的とした教科担当者を交えた学年検討会を開き、共通意識を持って学年及び全教師集団による指導を行う。 ・土曜補充を利用して入試を見据えた学力向上をはかる。

令和4年度 魚津高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	特別活動	
重点課題	生徒の自主的・自律的な活動の充実	
	① 生徒主体の学校行事の運営	② 部活動の活性化
現 状	・学校行事の運営が、感染症対策のために制約される中で、生徒の自主性や主体性が損なわれないように、活動内容を工夫している。	・生徒は、学習と部活動を両立させようと努力している。
達成目標	・学校行事に主体的に参加し協力したこと、達成感を抱いた生徒の割合。	・部活動に積極的に取り組んだ生徒の割合。
	80%以上	80%以上
方 策	・生徒が積極的に学校行事に参加できるように、生徒会が主体となって、できる限り意見を聞いて活動内容を工夫する。	・部活動に対する生徒の意識を高め、活動時間を有効に活用する工夫を促すことによって、部活動の活性化を図る。

令和4年度 魚津高等学校アクションプラン -5-

重点項目	その他	
重点課題	図書貸し出し冊数の増加	生徒保健委員会の活性化
現 状	・読書習慣が身につけていない生徒がいる。 ・学習や部活動に多くの時間を割く必要があり、図書館を利用したいと思っても来館できない生徒が少なからずいる。 ・2学期以降に3年生を中心に小論文・面接のための資料探しや読書、また学習室として使用する機会が増える。 ・教科の授業やHR、総合的な探究の時間等での閲覧室利用もあまり多くない。 ・保護者対象の図書館開放を年数回実施してる。	・清掃活動において、率先して活動を行う生徒が多い反面、取りかかりが遅く、指示待ちタイプの生徒も若干見られる。 ・学校保健委員会の発表までの準備過程で、委員全員が揃う機会が少なく、共通認識に基づいた委員の自主性が発揮されにくい。
達成目標	・全学年の平均貸し出し冊数3冊	①保健委員が美化週間に関するアイディアを出し、実行する。 1回/学期 ②学校保健委員会での発表の事前活動としてフィールドワーク、ポスターセッションを行う。
方 策	・1年次の図書館オリエンテーションで図書館利用を促す。 ・生徒の興味・関心をとらえた企画、展示、広報活動を工夫する。また、校外図書選定等を実施し、より生徒の読みたい本をそろえる。 ・小論文対策のレファレンス機能の充実を図る。 ・HR、総合的な探究の時間での活用を促す。 ・保護者の図書館利用を促し、教職員に対しても図書資料に関する情報を発信する。また選書に関わってもらう機会を設ける。	・美化週間中の清掃重点項目も生徒が考え、また放課後に、保健委員が教室を巡回し、美化・整頓がなされているか点検する。 ・発表テーマについて、夏休みにフィールドワーク、魚高祭でポスターセッションを行い、発表の事前活動とする。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)